

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	福岡外語専門学校
設置者名	学校法人福岡成蹊学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
文化教養専門課程	英語科	夜・通信		160 時間	※
	日本語科1年	夜・通信		80 時間	※
	日本語科1.5年	夜・通信		120 時間	※
	日本語科2年	夜・通信		160 時間	※
	国際文化科(進学1年コース)	夜・通信		80 時間	※
	国際文化科(進学2年コース)	夜・通信		160 時間	※
ビジネス専門課程	国際ビジネス科(国際ビジネスコース)	夜・通信	782 時間	160 時間	
	国際ビジネス科(国際キャリアコース)	夜・通信	1020 時間	160 時間	
	国際ホテル科	夜・通信	1182 時間	160 時間	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

WEBにて公開 「高等教育無償化に係る書類等」内に記載 URL : https://www.fflc.ac.jp/information/
--

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名 英語科、日本語科、国際文化科
(困難である理由) 主な授業科目内容が語学もしくは進学対策なので、実務経験を授業内容に取り入れるのは困難であるため。

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	福岡外語専門学校
設置者名	学校法人福岡成蹊学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

WEBにて公表 URL： https://www.fflc.ac.jp/information/ ※「事業報告書」内に記載
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	株式会社西日本硝子センター 代表取締役社長	令和5年4月1日～令和7年3月31日	学校諸規則の制定等、法人業務相談機関としての役割
非常勤	野田税理士事務所 所長	令和5年4月1日～令和7年3月31日	資産の運用や重要な設備の購入等、法人業務相談機関としての役割
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	福岡外語専門学校
設置者名	学校法人福岡成蹊学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
<p>シラバスは授業を担当する教員が各自作成し、それぞれの科内の教員による検討を経た後、教務会議で決定する。「福岡外語専門学校シラバスガイドライン」に沿って各年度の2月末までに完成させ、3月から本校のホームページで公表する。</p> <p>福岡外語専門学校シラバスガイドライン https://www.fflc.ac.jp/information/ ※「高等教育無償化に係る書類等」内に記載</p>	
授業計画書の公表方法	WEBにて公表 URL： https://www.fflc.ac.jp/information/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
<p>成績は、定期試験・平常点・出席状況を総合して評価し、その後職員会議にて審議の上、学校長の最終判断により評価する。各科における成績評価基準は、「福岡外語専門学校学習評価に関する規定」(第4条 成績評価)にて定め、学校ホームページにて公表。</p> <p>福岡外語専門学校学習評価に関する規定 https://www.fflc.ac.jp/information/ ※「成績評価」内に記載</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> 履修科目を成績評価基準に基づきA～Fで評価したものを数値化、 A(4点) B(3点) C(2点) D(1点) F(0点) 全科目の合計点・平均値(GPA)を算出する。 	
<p>客観的な指標の 算出方法の公表方法</p>	<p>WEBにて公表 URL: https://www.fflc.ac.jp/information/ ※「成績評価」内に記載</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>各科とも(第4条)成績評価基準をもとに履修科目をA～Fで評価し、各科目にF評価がない者に卒業を認める。 「福岡外語専門学校学習評価に関する規定」(第10条 卒業)にて各科の卒業認定の条件を定め、学校ホームページにて公表。</p> <p>福岡外語専門学校学習評価に関する規定 https://www.fflc.ac.jp/information/ ※「成績評価」内に記載</p>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>WEBにて公表 URL: https://www.fflc.ac.jp/information/ ※「成績評価」内に</p>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	福岡外語専門学校
設置者名	学校法人福岡成蹊学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	WEBにて公開 https://www.fflc.ac.jp/information/ ※「事業報告書」内に記載
収支計算書又は損益計算書	WEBにて公開 https://www.fflc.ac.jp/information/ ※「事業報告書」内に記載
財産目録	WEBにて公開 https://www.fflc.ac.jp/information/ ※「事業報告書」内に記載
事業報告書	WEBにて公開 https://www.fflc.ac.jp/information/
監事による監査報告（書）	WEBにて公開 https://www.fflc.ac.jp/information/ ※「事業報告書」内に記載

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化教養 専門課程	英語科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1700 単位時間／単位	1175 単位時間 ／単位	1447 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	204 単位時間 ／単位
			2826 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
100人		124人	1人	14人	5人	19人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） シラバスは授業を担当する教員が各自作成し、それぞれの科内の教員による検討を経た後、教務会議で決定する。「福岡外語専門学校シラバスガイドライン」に沿って各年度の2月末までに完成させ、3月から本校のホームページで公表する。 福岡外語専門学校シラバスガイドライン https://www.fflc.ac.jp/information/
成績評価の基準・方法
（概要） 成績は、定期試験・平常点・出席状況を総合して評価し、その後職員会議にて審議の上、学校長の最終判断により評価する。各科における成績評価基準は、「福岡外語専門学校学習評価に関する規定」（第4条 成績評価）にて定め、学校ホームページにて公表。 福岡外語専門学校学習評価に関する規定

https://www.fflc.ac.jp/information/
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>成績評価基準をもとに履修科目をA～Fで評価し、各科目にF評価がない者に卒業を認める。</p> <p>「福岡外語専門学校学習評価に関する規定」(第7条 卒業)にて各科の卒業認定の条件を定め、学校ホームページにて公表。</p> <p>福岡外語専門学校学習評価に関する規定</p> <p>https://www.fflc.ac.jp/information/</p>
学修支援等
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・独立行政法人日本学生支援機構による奨学金制度 ・海外提携校との交換留学生制度

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
70人 (100%)	28人 (40.0%)	22人 (31.4%)	20人 (28.6%)
(主な就職、業界等) 旅行会社、空港勤務、ホテル業界、英会話講師			
(就職指導内容) クラス担任制による面談実施、会社説明会開催、求人案内紹介、インターンシップ等			
(主な学修成果 (資格・検定等)) 実用英語技能検定、TOEIC、TOEFL、日本語ワープロ検定、情報処理技能検定試験 (表計算)			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
161人	28人	17.4%
(中途退学の主な理由) 進路変更、体調不良による退学		
(中退防止・中退者支援のための取組) 個人面談で個々にサポート、カウンセラーの配置、出席率低下時の早期フォローアップ実施		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化教養 専門課程	国際文化科 (進学1年コース)				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
	昼		講義	演習	実習	実験	実技
1年		850 単位時間/単位	850 単位時間 /単位	510 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			1360 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
20人		12人	12人	(4内数) 人	(9内数) 人	(13内 数)人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要)</p> <p>シラバスは授業を担当する教員が各自作成し、それぞれの科内の教員による検討を経た後、教務会議で決定する。「福岡外語専門学校シラバスガイドライン」に沿って各年度の2月末までに完成させ、3月から本校のホームページで公表する。 福岡外語専門学校シラバスガイドライン https://www.fflc.ac.jp/information/</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <p>成績は、定期試験・平常点・出席状況を総合して評価し、その後職員会議にて審議の上、学校長の最終判断により評価する。各科における成績評価基準は「福岡外語専門学校学習評価に関する規定」(第4条 成績評価)にて定め、学校ホームページにて公表。 福岡外語専門学校学習評価に関する規定 https://www.fflc.ac.jp/information/</p>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>成績評価基準をもとに履修科目をA～Fで評価し、各科目にF評価がない者に卒業を認める。 「福岡外語専門学校学習評価に関する規定」(第7条 卒業)にて各科の卒業認定の条件を定め、学校ホームページにて公表。 福岡外語専門学校学習評価に関する規定 https://www.fflc.ac.jp/information/</p>
学修支援等
<p>(概要)</p> <p>大学院進学指導、日本人との交流会、ワークショップの実施</p>

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数	その他

		(自営業を含む。)	
17人 (100%)	14人 (82.4%)	1人 (5.9%)	2人 (11.8%)
(主な就職、業界等) 進学を主とする			
(就職指導内容) 希望者がいれば、個別指導			
(主な学修成果(資格・検定等)) 日本留学試験、日本語能力試験			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
19人	1人	5.3%
(中途退学の主な理由) 体調不良		
(中退防止・中退者支援のための取組) 連続して欠席している学生に関しては自宅訪問を行う。 月次で出席率を把握し、出席率の悪い学生に関しては個人面談を実施		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化教養 専門課程	国際文化科 (進学2年コース)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1700 単位時間/単位	1462 単位時間 /単位	850 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			2312 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人		18人	18人	(4内数) 人	(9内数) 人	(13内 数)人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) シラバスは授業を担当する教員が各自作成し、それぞれの科内の教員による検討を経た後、教務会議で決定する。「福岡外語専門学校シラバスガイドライン」に沿って各年度の2月末までに完成させ、3月から本校のホームページで公表する。 福岡外語専門学校シラバスガイドライン https://www.fflc.ac.jp/information/

成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <p>成績は、定期試験・平常点・出席状況を総合して評価し、その後職員会議にて審議の上、学校長の最終判断により評価する。各科における成績評価基準は「福岡外語専門学校学習評価に関する規定」(第4条 成績評価)にて定め、学校ホームページにて公表。</p> <p>福岡外語専門学校学習評価に関する規定 https://www.fflc.ac.jp/information/</p>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>成績評価基準をもとに履修科目をA～Fで評価し、各科目にF評価がない者に卒業を認める。</p> <p>「福岡外語専門学校学習評価に関する規定」(第7条 卒業)にて各科の卒業認定の条件を定め、学校ホームページにて公表。</p> <p>福岡外語専門学校学習評価に関する規定 https://www.fflc.ac.jp/information/</p>
学修支援等
<p>(概要)</p> <p>大学院進学指導、日本人との交流会、ワークショップの実施</p>

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
28人 (100%)	25人 (89.3%)	2人 (7.1%)	1人 (3.6%)
(主な就職、業界等) 進学を主とする			
(就職指導内容) 希望者がいれば、個別指導			
(主な学修成果 (資格・検定等)) 日本留学試験、日本語能力試験			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率

44 人	7 人	15.9%
(中途退学の主な理由) 進学早期決定、帰国、除籍		
(中退防止・中退者支援のための取組) 連続して欠席している学生に関しては自宅訪問を行う。 月次で出席率を把握し、出席率の悪い学生に関しては個人面談を実施		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		ビジネス 専門課程	国際ビジネス科 (国際ビジネスコース)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1700 単位時間／単位	306 単位時間 /単位	1649 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			1955 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
(170 内数) 人		64 人	66 人	(9 内数) 人	(11 内数) 人	(20 内 数) 人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) シラバスは授業を担当する教員が各自作成し、それぞれの科内の教員による検討を経た後、教務会議で決定する。「福岡外語専門学校シラバスガイドライン」に沿って各年度の2月末までに完成させ、3月から本校のホームページで公表する。 福岡外語専門学校シラバスガイドライン https://www.fflc.ac.jp/information/
成績評価の基準・方法
(概要) 成績は、定期試験・平常点・出席状況を総合して評価し、その後職員会議にて審議の上、学校長の最終判断により評価する。各科における成績評価基準は「福岡外語専門学校学習評価に関する規定」(第4条 成績評価)にて定め、学校ホームページにて公表。 福岡外語専門学校学習評価に関する規定 https://www.fflc.ac.jp/information/
卒業・進級の認定基準
(概要) 成績評価基準をもとに履修科目をA～Fで評価し、各科目にF評価がない者に卒業を認める。 「福岡外語専門学校学習評価に関する規定」(第7条 卒業)にて各科の卒業認定の条件を定め、学校ホームページにて公表。 福岡外語専門学校学習評価に関する規定 https://www.fflc.ac.jp/information/

学修支援等 (概要) 日本企業へのインターンシップ、行政書士による就労ビザ取得講座の実施
--

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
140人 (100%)	17人 (12.1%)	103人 (73.6%)	20人 (14.3%)
(主な就職、業界等) 空港、運輸、ホテル、人材派遣、製造、小売業界			
(就職指導内容) クラス担任制、履歴書作成や面接指導、SPI 対策授業、学校での会社説明会の実施			
(主な学修成果 (資格・検定等)) 日本語能力試験 日本留学試験 情報処理技能検定ワード/エクセル BJT ビジネス日本語能力テスト			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
191人	11人	5.8%
(中途退学の主な理由) 早期就職、帰国		
(中退防止・中退者支援のための取組) 連続して欠席している学生に関しては自宅訪問を実施 月次で出席率を把握し、出席率の悪い学生に関しては個人面談を		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
商業実務	ビジネス 専門課程	国際ビジネス科 (国際キャリアコース)	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1700 単位時間/単位	612 単位時間 /単位	1326 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位

			1938 単位時間／単位		
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
(170 内数) 人	14 人	14 人	(9 内数) 人	(11 内数) 人	(20 内数) 人

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) シラバスは授業を担当する教員が各自作成し、それぞれの科内の教員による検討を経た後、教務会議で決定する。「福岡外語専門学校シラバスガイドライン」に沿って各年度の2月末までに完成させ、3月から本校のホームページで公表する。 福岡外語専門学校シラバスガイドライン https://www.fflc.ac.jp/information/
成績評価の基準・方法
(概要) 成績は、定期試験・平常点・出席状況を総合して評価し、その後職員会議にて審議の上、学校長の最終判断により評価する。各科における成績評価基準は「福岡外語専門学校学習評価に関する規定」(第4条 成績評価)にて定め、学校ホームページにて公表。 福岡外語専門学校学習評価に関する規定 https://www.fflc.ac.jp/information/
卒業・進級の認定基準
(概要) 成績評価基準をもとに履修科目をA～Fで評価し、各科目にF評価がない者に卒業を認める。 「福岡外語専門学校学習評価に関する規定」(第7条 卒業)にて各科の卒業認定の条件を定め、学校ホームページにて公表。 福岡外語専門学校学習評価に関する規定 https://www.fflc.ac.jp/information/
学修支援等
(概要) 日本企業へのインターンシップ、行政書士による就労ビザ取得講座の実施

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
16 人 (100%)	0 人 (0%)	9 人 (56.3%)	7 人 (43.8%)
(主な就職、業界等) 建設業、運輸業、サービス業、小売業			

(就職指導内容) クラス担任制、履歴書作成や面接指導、SPI 対策授業、学校での会社説明会の実施
(主な学修成果 (資格・検定等)) 日本語能力試験 日本留学試験 情報処理技能検定ワード/エクセル BJT ビジネス日本語能力テスト
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
33 人	9 人	27.3%
(中途退学の主な理由) 早期就職、帰国		
(中退防止・中退者支援のための取組) 連続して欠席している学生に関しては自宅訪問を実施 月次で出席率を把握し、出席率の悪い学生に関しては個人面談を実施		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		ビジネス 専門課程	国際ホテル科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
	昼		講義	演習	実習	実験	実技
2 年		1700 単位時間/単位	714 単位時間 /単位	986 単位時間 /単位	128 単位時間 /単位	1828 単位時間/単位	
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人		18 人	16 人	9 人	3 人	12 人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) シラバスは授業を担当する教員が各自作成し、それぞれの科内の教員による検討を経た後、教務会議で決定する。「福岡外語専門学校シラバスガイドライン」に沿って各年度の2月末までに完成させ、3月から本校のホームページで公表する。 福岡外語専門学校シラバスガイドライン https://www.fflc.ac.jp/information/
成績評価の基準・方法
(概要) 成績は、定期試験・平常点・出席状況を総合して評価し、その後職員会議にて審議の上、学校長の最終判断により評価する。各科における成績評価基準は「福岡外語専門学校学習評価に関する規定」(第4条 成績評価)にて定め、学校ホ

<p>ホームページにて公表。 福岡外語専門学校学習評価に関する規定 https://www.fflc.ac.jp/information/</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要) 成績評価基準をもとに履修科目を A～F で評価し、各科目に F 評価がない者に卒業を認める。 「福岡外語専門学校学習評価に関する規定」(第7条 卒業)にて各科の卒業認定の条件を定め、学校ホームページにて公表。 福岡外語専門学校学習評価に関する規定 https://www.fflc.ac.jp/information/</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要) 日本企業へのインターンシップ、ホテルでの実務研修、ホテル管理システム演習</p>

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
30人 (100%)	2人 (6.7%)	28人 (93.3%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) ホテル・旅館業			
(就職指導内容) クラス担任制、履歴書作成や面接指導、SPI 対策授業の実施、学校での会社説明会の実施			
(主な学修成果 (資格・検定等)) 日本語能力試験 日本留学試験 情報処理技能検定ワード/エクセル BJT ビジネス日本語能力テスト ホテルビジネス実務検定 サービス接客検定			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
46人	4人	8.7%
(中途退学の主な理由) 早期就職、帰国		
(中退防止・中退者支援のための取組) 連続して欠席している学生に関しては自宅訪問を実施 月次で出席率を把握し、出席率の悪い学生に関しては個人面談を実施		

--

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化教養 専門課程	日本語科 (1年コース)				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	850 単位時間/単位	1000 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			1000 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
20人		30人	30人	(25内数) 人	(11内数) 人	(36内 数) 人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要)</p> <p>シラバスは授業を担当する教員が各自作成し、それぞれの科内の教員による検討を経た後、教務会議で決定する。「福岡外語専門学校シラバスガイドライン」に沿って各年度の2月末までに完成させ、3月から本校のホームページで公表する。</p> <p>福岡外語専門学校シラバスガイドライン https://www.fflc.ac.jp/information/</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <p>成績は、定期試験・平常点・出席状況を総合して評価し、その後職員会議にて審議の上、学校長の最終判断により評価する。各科における成績評価基準は「福岡外語専門学校学習評価に関する規定」(第4条 成績評価)にて定め、学校ホームページにて公表。</p> <p>福岡外語専門学校学習評価に関する規定 https://www.fflc.ac.jp/information/</p>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>成績評価基準をもとに履修科目をA～Fで評価し、各科目にF評価がない者に卒業を認める。</p> <p>「福岡外語専門学校学習評価に関する規定」(第7条 卒業)にて各科の卒業認定の条件を定め、学校ホームページにて公表。</p> <p>福岡外語専門学校学習評価に関する規定 https://www.fflc.ac.jp/information/</p>
学修支援等
<p>(概要)</p> <p>日本人学生との交流会、日本語能力試験対策、進路指導の実施</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
19人 (100%)	4人 (21.1%)	5人 (26.3%)	10人 (52.6%)
（主な就職、業界等） 海外から入学し日本語を学ぶコースのため、卒業後は大学・専門学校への進学が主			
（就職指導内容） 希望者がいれば、個別指導			
（主な学修成果（資格・検定等）） 日本語能力試験、J-TEST			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
52人	6人	11.5%
（中途退学の主な理由） 就職、帰国		
（中退防止・中退者支援のための取組） 連続して欠席している学生に関しては自宅訪問を実施 月次で出席率を把握し、出席率の悪い学生に関しては個人面談を実施		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化教養 専門課程	日本語科 (1.5年コース)				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1.5 年	昼	1275 単位時間/単位	1500 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			1500 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
130人		41人	41人	(25内数) 人	(11内数) 人	(36内 数)人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

<p>(概要)</p> <p>シラバスは授業を担当する教員が各自作成し、それぞれの科内の教員による検討を経た後、教務会議で決定する。「福岡外語専門学校シラバスガイドライン」に沿って各年度の2月末までに完成させ、3月から本校のホームページで公表する。</p> <p>福岡外語専門学校シラバスガイドライン https://www.fflc.ac.jp/information/</p>
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>(概要)</p> <p>成績は、定期試験・平常点・出席状況を総合して評価し、その後職員会議にて審議の上、学校長の最終判断により評価する。各科における成績評価基準は「福岡外語専門学校学習評価に関する規定」(第4条 成績評価)にて定め、学校ホームページにて公表。</p> <p>福岡外語専門学校学習評価に関する規定 https://www.fflc.ac.jp/information/</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要)</p> <p>成績評価基準をもとに履修科目をA～Fで評価し、各科目にF評価がない者に卒業を認める。</p> <p>「福岡外語専門学校学習評価に関する規定」(第7条 卒業)にて各科の卒業認定の条件を定め、学校ホームページにて公表。</p> <p>福岡外語専門学校学習評価に関する規定 https://www.fflc.ac.jp/information/</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>日本人学生との交流会、日本語能力試験対策、進路指導の実施</p>

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
3人 (100%)	0人 (0%)	1人 (33.3%)	2人 (66.7%)
(主な就職、業界等) 教育学習支援業			
(就職指導内容) 希望者がいれば、個別指導			
(主な学修成果 (資格・検定等)) 日本語能力試験、J-TEST			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
44 人	2 人	4.5%
(中途退学の主な理由) 就職、帰国		
(中退防止・中退者支援のための取組) 連続して欠席している学生に関しては自宅訪問を実施 月次で出席率を把握し、出席率の悪い学生に関しては個人面談を実施		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化教養 専門課程	日本語科 (2年コース)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1700 単位時間/単位	2000 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			2000 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
130 人		155 人	155 人	(25 内数) 人	(11 内数) 人	(36 内 数) 人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) シラバスは授業を担当する教員が各自作成し、それぞれの科内の教員による検討を経た後、教務会議で決定する。「福岡外語専門学校シラバスガイドライン」に沿って各年度の2月末までに完成させ、3月から本校のホームページで公表する。 福岡外語専門学校シラバスガイドライン https://www.fflc.ac.jp/information/
成績評価の基準・方法
(概要) 成績は、定期試験・平常点・出席状況を総合して評価し、その後職員会議にて審議の上、学校長の最終判断により評価する。各科における成績評価基準は「福岡外語専門学校学習評価に関する規定」(第4条 成績評価)にて定め、学校ホームページにて公表。 福岡外語専門学校学習評価に関する規定 https://www.fflc.ac.jp/information/
卒業・進級の認定基準
(概要) 成績評価基準をもとに履修科目をA～Fで評価し、各科目にF評価がない者に卒業を認める。 「福岡外語専門学校学習評価に関する規定」(第7条 卒業)にて各科の卒業認定の

条件を定め、学校ホームページにて公表。 福岡外語専門学校学習評価に関する規定 https://www.fflc.ac.jp/information/
学修支援等 (概要) 日本人学生との交流会、日本語能力試験対策、進路指導の実施

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
1人 (100%)	1人 (100%)	0人 (0%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 海外から入学し日本語を学ぶコースのため、卒業後は大学・専門学校への進学が主			
(就職指導内容) 希望者がいれば、個別指導			
(主な学修成果(資格・検定等)) 日本語能力試験、J-TEST			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
110人	17人	15.5%
(中途退学の主な理由) 就職、帰国		
(中退防止・中退者支援のための取組) 連続して欠席している学生に関しては自宅訪問を実施 月次で出席率を把握し、出席率の悪い学生に関しては個人面談を実施		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考(任意記載事項)
英語科	100,000円	850,000円	90,000円	
国際文化科	80,000円	600,000円	100,000円	

国際ビジネス科	80,000 円	600,000 円	100,000 円	
国際ホテル科	80,000 円	600,000 円	100,000 円	
日本語科	80,000 円	600,000 円	66,000 円	
修学支援（任意記載事項）				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) URL : https://www.fflc.ac.jp/information/		
学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制） 本校の教育活動全般に関して学校長に助言することを目的とする。学校運営・学修成果・教育環境・国際交流などの学校の取組における学校自己評価に対して意見をもらい、その外部の意見を職員に還元、学生の満足度を高めるために、学校の取組の改善に資する。副校長を統括責任者として、教育活動・学習成果・学生支援については、新年度から学校自己評価表記載の改善方策を実施。教育環境・受入募集については状況に応じて年度後半にむけ改善方策を実施する。 評価委員：5人（業界、卒業生、保護者、地域、校長等進路担当） 学校関係者評価委員会：年2回実施		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
福岡外語専門学校同窓会 副会長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	卒業生
有限会社キューエスエヌ 代表取締役	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	保護者
福岡海星女子学院高等学校 副校長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	進路担当者
トリゼンフーズ株式会社 代表取締役会長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	地域住民
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) URL : https://www.fflc.ac.jp/		
第三者による学校評価（任意記載事項）		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) URL : https://www.fflc.ac.jp/
--

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	H140313000038
学校名	福岡外語専門学校
設置者名	学校法人福岡成蹊学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		24人	25人	27人
内 訳	第Ⅰ区分	17人	17人	
	第Ⅱ区分	－	－	
	第Ⅲ区分	－	－	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				27人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定		0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)		0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況		0人	0人
「警告」の区分に連続して該当		0人	0人
計		0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡つて認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
年間	前半期	後半期	
	0人	0人	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	—
3月以上の停学	0人
年間計	—
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)		0人	0人
G P A等が下位4分の1		—	—
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況		—	—
計		—	—
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。